Topic

COLUMN：先生紹介　山中 慧祐（カイコベ蒲生四丁目教室）



数学は「答え」より「考え方」がおもしろい！

皆さんこんにちは！
カイコベ蒲生四丁目教室で働いています近畿大学4回生の山中慧祐です！

今、僕は大学で数学を専攻しており、卒業研究のテーマは微分方程式という、とても簡単に言えば、「ものの変化をあらわす方程式」です。

数学を大学でも学び、数学の勉強をもっと楽しんでほしいと思っている私ですが、皆さんこう思ったことがありませんか？

「数学の勉強は楽しくない」
「なぜ、どうして数学の勉強をするのか？」

僕もよく生徒から話を聞きます。そこで、微分方程式を体系的に研究し、「世界一美しい公式」$e^{i\theta}+1=0$という式にも名を連ねるレオンハルト・オイラーの言葉として伝えられる言葉と、僕自身の考えから1つの解を求めてみようと思います。

その言葉とは、**「論理は、我々が獲得するすべての知識の確実性の基礎である」**ということです。オイラーは知識を覚えている訳でなく、理由を「論理的に」説明できるから、その知識を正しいと確信できるものとしてとらえています。

すなわち、「答えを知っていること」よりも「なぜその答えが正しいのかを論理的に理解すること」が大切ととらえている訳です。

僕は、数学を「覚えて計算するだけ」の教科だと考え、問題を解いている間は絶対に楽しくないですし、数学力が伸びないと考えています。その問題を解く過程を「論理的に」学び、考えると数学の楽しさに1歩近づけるのではないかと考えています。

そして、「論理的に」考える力は数学だけにとらわれず、いろいろな意見、問題について考える「論理的思考力」を獲得できます。論理的思考力は物事を多角的にとらえることができ、さまざまな視点から物事を考える力につながります。

「論理的思考力」を伸ばす上で一番といっていい勉強こそが、数学という訳です。

昨今、AIが発展しています。中学の数学の問題のほぼすべてがAIに入れたら問題を解いてくれる時代になってきています。しかし、それだけに頼って答えを求めるだけでなく、論理を用いて自ら考え、答えに至る過程を大切にする人の方が、より良い力を身に着けられるのではないでしょうか。



マナロのちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE　マナロ恭子（関目教室・今福教室）

ジャーナリングとパスカルキッズとわたし

先日、友達の紹介で「ジャーナリングの会」に参加しました。

母としての私、妻としての私、先生としての私、会社員としての私――どれも中途半端に感じてしまい、いったい自分はどこに向かっているのか分からなくなっていた時期でした。

会が開かれたのは静かなブックカフェ。
自分と向き合う質問が順番に与えられ、思いつくままに書きながら心の奥にある声を拾っていく。本棚から選んだ3冊の本の言葉を手がかりに、自分の内側にある想いを解き放っていく。

どんな質問にも、枠からはみ出すほど書きたいことがスラスラ出てきて、「書く」という行為がこんなにも解放感をもたらすのかと驚きました。

慌ただしい毎日の中で、頭の中にいろいろな考えが渦巻くと、感情と思考が絡まり合い、知らないうちに心が重たくなることがあります。正解が分からなくなったり、考えすぎて動けなくなったり、時には考えていたことすら忘れてしまったり。気づけば同じ悩みを数か月、数年抱えていた――そんな経験ありませんか？

「書く」という行為は、頭の中にあるものを外に出し、絡まった糸を一本ずつほどくように心と考えを整理してくれます。心と頭が整うことで、「まずはこれをやってみよう」と行動につながりやすくなるのだと教わりました。

中2の娘も一緒に参加しましたが、娘は私とは正反対で「自分との対話」のような質問に筆がなかなか進まない様子でした。最後に「意外と自分のことをあんまり知らないって分かった」と言っていて、その気づきこそ大きな成果だと感じました。自分と向き合うことは勇気がいるし、時間もかかります。娘はその入り口に立つことができました。内に秘めた想いや悩みに蓋をせず、外に出して自分と向き合う。ジャーナリングは中高生にとっても大きな助けになるはずです。主催者さんも3児の母で、子ども向けのジャーナリングの会を考案中とのこと。とてもありがたい取り組みだと思います。

そして私は今、ジャーナリングで「パスカルキッズ」についての悩みや想いを書き出しています。

パスカルキッズはカイチも含めるともうすぐ全国50教室。たくさんの素晴らしい先生方に出会い、私自身も指導者としてもっと学びたい気持ちが強くなりました。子ども達が学習面だけでなく、「やり抜く力」「楽しむ力」「好奇心」を育めるようなサポートができる力をもっと身につけたい。
先生と生徒が一緒に成長できるパスカルキッズを、全国にもっと広めたい。

そのために私ができることを、ジャーナリングで一つずつ整理しているところです。



▲私の手帳とジャーナリングノート

毎日、子どもや家族、仕事のことで悩んでいるお母さん達にも、ぜひジャーナリングで心が軽くなる感覚を味わってほしい――そんな思いで今回、筆をとりました。



◀パスカルキッズ関東エリアの先生達。この中に北海道の教室の先生もいます。

カイチからのお知らせ

- **夏期講習最終日に受験した模擬試験結果の返却は9月下旬～10月上旬を予定しております。**
- **文理学科対策講座・受験対策講座(中3)の第1タームを9月12日(土)、9月19日(土)、26日(土)、10月10日(土)で実施します。**
- **中間模擬テストを9月中旬に実施します。詳しい日程は授業内でお知らせします。**
- **小学部診断テストを9月16日(水)・17日(木)に実施します。**

発行／株式会社 開智総合学院　〒536-0004 大阪市城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI201　TEL.06-6939-0008

Growing

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

September 2026
Vol.168
毎月10日発行

【本　部】
城東区今福西2−1−8モデラートWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】
城東区今福西 2-9-20
TEL.06-6934-4662
【諸口教室】
鶴見区諸口 4-14-9-1F
TEL.06-6912-3984
【今津教室】
鶴見区今津南 1-6-2-1F
TEL.06-6167-9722
【高殿教室】
城東区成育 5-22-10-2F
TEL.06-6786-1008
【エニグマ】
中央区谷町 9-4-5-3F
TEL.06-6777-1563
【カイコベ】
城東区今福西 3-4-9
TEL.06-6180-6565

【今福第2教室】
城東区今福西 2-16-8
TEL.06-6931-2000
【関目教室】
城東区関目 4-6-17-2F・3F
TEL.06-6934-8117
【古市教室】
城東区古市 3-21-8
TEL.06-6931-0467
【カイチ予備校】
城東区今福西 1-10-17
TEL.06-6935-2220
【万緑会】
天王寺区上本町 6-9-10-3F
TEL.06-6772-5011

AI時代の幕開けと、子どもたちに本当に必要な力



高木 秀章（塾長）

先月、朝日新聞の一面に、AIが人類を滅ぼす可能性についての記事が掲載されました。 新聞の一面にこうした内容が載ること自体、まるでSF映画のようで、AIが生活に入り始めていることは理解していても、どこか実感が追いつかない不思議な気持ちになります。

この記事は、オープンAIの研究者ダニエル・ココタイロ氏が公表した「AI 2040」をもとに、人類が進みうる5つの道筋――A・B・C・D・S――を紹介したものです。



■5つの未来シナリオと、私たちが立っている場所

最良の「プランA」では、2029年に予測されるAIの知能爆発を避けるため、米国大統領が国際協力を呼びかけ、米中が開発競争を緩めることに合意します。

透明性あるAI開発が世界に広がり、人類はその恩恵を受ける――そんな希望ある未来です。

しかし、このプランAに至る確率は現時点で10%ほどだと言われています。今の世界情勢を見ると、確かに簡単ではないように思えます。

そして、記事では「私たちが今いるのはプランD」と指摘します。

米中の開発競争が止まらず、AIの性能向上が制御不能になり、AIが自らの生存を優先して人類に生物兵器を用いる――そんな最悪のシナリオです。

■ “巨大な円盤”が頭上に浮かぶ世界

この記事を読んで、先日観た浅野いにおさんの『デッド・デッド・デーモンズ・デデデデデストラクション』を思い出しました。

空に巨大な円盤が浮かび続ける異常な状況に、人々は次第に慣れてしまい、日常の一部になっていく。

しかしその裏側では、各国が協力どころか情報争奪や主導権争いを続け、ある日突然の攻撃で人類は滅びてしまう――そんな物語です。

AIもまた、静かに頭上に浮かぶ巨大な円盤のような存在なのかもしれません。

■2030年、社会はどう変わるのか

最善のプランAでも、2030年ごろにホワイトカラーの仕事が減る未来は、ほぼ確実に訪れると言われています。社会制度が追いつくまでのタイムラグを考えると、社会は一時的に大きな混乱に見舞われる可能性があります。

私たちには、AIの国際競争を止めることはできません。

しかし、激動の時代を生き抜く力を子どもたちに育てることはできます。

■AI時代の子どもたちに必要な力は？

私は次の3つだと感じています。
「好奇心」「自分の頭で考える力」「行動力（とりあえず、やってみる力）」

これらは、実は日々の勉強やクラブ活動を一生懸命に取り組むことで育つ力です。ただし、好奇心だけは、子どもたちの周りの大人が、日々何事にも楽しんで取り組む姿勢を見せることも必要な気がします。（難しいことですが）



▲AIと教育の専門家。さらに母である小宮山さんが書く、AI時代の家庭教育！

また、AI時代に必要な力について詳しく知りたい方には、小宮山利恵子さん著の「好奇心でゼロからイチを生み出す『なぜ？どうして？』の伸ばし方」がおすすめです。株式会社リクルートスタディーサプリ教育AI研究所所長・東京学芸大学大学院教育学研究科教授という肩書を持つ小宮山さんは、AIと教育の専門家でありながら自身も育児をされているお母さんでもあります。自身の知見と経験を踏まえて書かれているので、共感しながら新しい時代の教育やその実践法を知ることができます。

■AIという“静かに浮かぶ巨大な未確認飛行物体”

AIの進歩は早すぎて、またあまりにも私達の生活に自然に入り込み過ぎて、それがもたらす影響や脅威への実感が湧きにくくなっている気がします。けれど、それが、希望にも脅威にもなりうる。常に頭上に浮かぶ巨大な未確認飛行物体であることを意識しながら、AIを豊かに生きるために活用できる術を子どもたちと学ばなければならないと思います。

AIは、私たちが恐れて目を背ければ背けるほど、理解できないまま巨大化していく存在です。

だからこそ、必要なのは「恐れないこと」ではなく、「向き合うこと」。未知を遠ざけるのではなく、未知を扱う力を育てること。

頭上に浮かぶ巨大な円盤のようなAIを、脅威として見上げるのではなく、道具として使いこなせる世代を育てること。そのための第一歩は、私たち大人自身が、学び続ける姿勢を子どもたちに背中で示すことなのだと思います。

Focus



CLASSROOM REPORT 教室レポート

変わりゆく時代の中で、子どもたちに残したいもの

イルストレ・ルイージ（かいち学童）

「学校で今日は何があったの？」
「難しいことでも、まずやってみよう」
「失敗しても、もう一度考えてみよう」



そんな何気ない毎日の積み重ねが、子どもの成長には大切なのではないでしょうか。

今の時代、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。便利になり、遊び方も学び方も変わりました。家族で過ごす時間があっても、会話をするよりゲームや動画を選ぶこともあります。勉強が難しくなると、すぐに「できない」と諦めてしまうこともあります。

もちろん、時代の進化は素晴らしいことです。だからこそ私たちは、未来へ進む子どもたちに、昔から変わらない「基本」を大切にしてほしいと考えています。



ある話に、まかれた種が、良い土地に落ちることで豊かな実を結ぶ、というものがあります。

子どもたちも同じです。知識を与えるだけではなく、安心して根を張れる環境の中で、小さな経験を毎日積み重ねること。それが、これからの時代を生きる力になると私たちは考えています。

■かいち学童が毎日大切にしていること

かいち学童は3校あり、すべて同じシステムで子どもたちをお預かりしています。

学校へのお迎えから始まり、学童に到着すると、それぞれのペースでおやつを楽しみます。そして、毎日の「基本タスク」に取り組みます。

1.宿題 ― プロの先生たちが、一人ひとりの宿題をきちんと確認します。
2.能力開発プリント ― 毎日1枚取り組み、丸つけまで行います。
3.10分間の読書 ― 自分でタイマーを10分に設定し、静かに読書します。

特別なことではないかもしれません。でも、「毎日、自分でやる」「最後までやってみる」という習慣こそが、子どもたちの大きな力になっていきます。

そして、私たちが大切にしているのは、勉強だけではありません。

基本タスクが終わった後は、先生と遊んだり、学校であったことを話したり、悩みを相談したりします。

子どもにも、子どもなりの悩みがあります。だからこそ、かいち学童では、「ここなら何でも話していい」と思える場所でありたいと考えています。失敗したときも、ただ叱って終わるのではありません。

「今、どうだった？」
「何が起きたのかな？」
「次はどうしたらいいと思う？」

一緒に出来事を振り返り、自分で考える時間をつくります。



また、教室はいつも清潔に保ち、子どもたちが次に何をするのか自然にわかるよう、物の配置や動線にも工夫しています。毎日の流れがわかることが、子どもたちの安心につながるからです。そして、先生にはたくさん甘えていい。

「先生、聞いて！」
「一緒に遊ぼう！」
「こんなことがあったよ！」

そんな声が自然に出てくる、安心できる関係を大切にしています。

■変化する時代だからこそ、変わらないものを

話すこと。聞くこと。考えること。やってみること。失敗して、もう一度挑戦すること。

一日一日の小さな「基本」が、子どもたちの心に根を張り、やがて大きな力となって実を結ぶ。



かいち学童は、そんな子どもたちの成長を、毎日の生活の中から大切に支えていきます。

2027年4月からの新入生募集は、10月よりスタートします。

今年は例年より早くお問い合わせをいただいており、すでに残りわずかとなっている枠もございます。

学童をお探しの方、かいち学童の取り組みにご興味をお持ちの方は、ぜひお早めにお問い合わせください。

子どもたちが安心して過ごし、毎日の小さな「できた」を積み重ねられる場所を。

私たちは、これからも一人ひとりの子どもたちの成長に寄り添っていきます。

Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

夏期講習、そして合宿へ

坪田 陽一（関目教室）

今年も夏休みが終わりましたね。毎日のように厳しい暑さが続く中でしたが、どのように過ごされたでしょうか？この危険な暑さの中、野外や体育館で汗だくになりながら部活動などに励んだ子もいたと思います。まずはお疲れ様でした！まだまだ暑い日が続きそうですが、体調管理を万全にしつつ、無理のないように過ごして欲しいと思います。

カイチでも夏期講習が行われました。

午前中は小学生の授業、昼からは中学３年生の７０分×３回の授業、夕方に珠算やパスカルキッズ、トーキングキッズを挟み、夜は中１，２の授業…と、なかなかに忙しい１日となります。先生達も、真っ黒に日焼けした子ども達からパワーをもらいながら、また栄養ドリンクのお世話になりながら（？）夏を乗り切りました。エアコンの効いた涼しい室内ではありますが、部活等でヘトヘトにも関わらず、長時間集中力を切らさずに授業を受ける生徒達には本当に頭が下がります。前学年や１学期の復習がメインでしたが、記憶定着の為には「ただ読む、書きまくる」だけではなく、**問題を解いたりテストを受けたりする中で「頑張って思い出そうとする」→「答えを確認、復習」することが一番効率的。**与えられたテキストをやり切り、日々の小テストに真面目に取り組んだ生徒の皆さんは、２学期に必ず伸びてきます。この後も一緒に頑張っていきましょう！

さて、毎年恒例となりました、中３対象の夏期合宿は早３年目。今年もお盆前の9日～11日、2泊3日でホテルフクラシアに泊まり込み、受験生たちを勉強漬けにしてきました。振り返れば、１年目は段取りがうまくいかずリスニングCDを忘れて慌てて取りに戻ったり、教材印刷を急遽ホテルのコピー機で行ったりと、すったもんだがありました。しかしまあ、３年目ともなるとみんな慣れたもので、…と高をくくっていたところ、**今年は過去最大の147名が参加！**予約していた研修室では入りきらないので急遽広い所に変更したり、宿泊部屋を増やしたりと、ホテル側との折衝担当の川西先生が大変でした。



▲授業中です。みんな真剣な表情で凛々しい！なぜか何人かカメラ目線の生徒がいますが…

これだけの人数になると、色々トラブルも多くなるかと思いきや、大きなトラブルもなく（若干の体調不良者や、3日目に寝坊した生徒はいましたが…）、3日間を過ごすことができました。ホテル側の配慮の行き届いたサービスのおかげでもありますし、何より生徒達がルールを守って行動してくれたおかげかと思います。また担当の先生方も、指示を待つのではなく、こまめに相談しつつも積極的に立ち回ってくれました。



▲食事は毎度のことながらおいしい！生徒達もにっこりです。

生徒達は、いつもと違う場所で多少はしゃぎつつも、授業や自習時間ではスイッチを切り替えて真剣に取り組んでくれました。やはりいつもの教室とは違う雰囲気で、いつもと違う先生から授業を受けることは大きな刺激です。現に合宿から帰ってきてから大きく成績を伸ばし、志望校を変えようかという話が出ている生徒も。顔つきもなんだか違って見えて、**「人が成長する」光景を目の当たりにしました。**これこそ先生という仕事の醍醐味だなあと感じます。これは先生方についても言えること。私自身も「もっと授業研究せねば！」と気持ちを新たにして帰ってきた次第です。



▲普段と違うサイズの教室なので、先生達も声量や字の大きさに配慮しつつ行いました。生徒が多いこともあり、１コマ授業するだけでかなり消耗します…



▲先生方の作業場。ここで採点や打ち合わせをしています。採点ミスがあった時や順位集計時は修羅場です…

合宿が、生徒達にとっても、また先生達にとっても、いい学びの場になっているのが本当に素晴らしいと思います。



▲今年から導入の教室別対抗戦。結果は諸口教室の圧勝！トロフィー大きすぎひん？



▲最後に激励会！みんないい顔してますね～お疲れ様でした！

今年も夏休みが終わりました。年々暑さが厳しくなります。世の中もAIによって、また国際情勢によって大きく様変わりしています。そんな中ですが、カイチはこれからも「変えるべきもの」と「変えるべきではないもの」を慎重に見極めつつ、「地域の子どもたちが成長できる場」を提供し続けようと思っています。